

さくらサイエンスプランによる台湾・日本の高校生を受け入れました (2017/12/18, 22-23)

場所：災害科学国際研究所，南三陸町，女川町，石巻市，東松島市
テーマ：津波，防災，減災，科学技術交流

2017年12月18日，22-23日に科学技術振興機構（JST）日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）により来日した台湾の高校生ら（国立南投高級中学，台北市立大同高級中学）を災害科学国際研究所に受け入れ，国際学術交流イベントが開催されました。当研究所の教職員（今村文彦所長，災害リスク研究部門のサッパシー・アナワット准教授，寄附研究部門の安倍祥助手，広報室）が様々な訪問対応をし，津波被災地巡検を案内しました。

12月18日には台湾から生徒14名と引率教諭2名，通訳を担当する留学生の計17名が当研究所を訪問しました。2階展示スペースにて当研究所の活動を説明し，3D映像「大津波」を広報室から紹介して全員で視聴し，今村所長が津波および東日本大震災について特別講義を担当して理解を深めました。

12月22日には，台湾からの高校生らと，宮城県仙台第一高等学校の生徒らを受け入れ，高校生28名によるワークショップが行われました。前半にサッパシー准教授から東北地方での津波と防災対策の歴史，2011年東日本大震災からの教訓等の内容を講義し，後半は台湾と日本の高校生の混在グループに分かれて，各津波被災地及び地形の特徴（岩沼市，仙台市，女川町，南三陸町）に対して，防災対策，避難，まちづくり等について議論し，グループの意見を発表しました。引き続き23日にはサッパシー准教授が津波被災地巡検を案内しました。巡検場所の南三陸町（防災対策庁舎，志津川小学校，さんさん商店街），女川町（女川町地域医療センター），石巻市（魚町三丁目津波避難タワー），東松島市（旧野蒜駅，災害復興伝承館）を巡り，両国の高校生らは，それぞれの地域で津波防災・減災や復興に関する知見を得られたようです。



台北市立大同高級中学のみなさんと今村所長



国立南投高級中学のみなさんと今村所長



当研究所訪問の様子



ワークショップの様子

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門），安倍祥（寄附研究部門）
（次頁へつづく）



南三陸町訪問の様子



災害復興伝承館訪問の様子



参加者の集合写真

※この交流事業は、科学技術振興機構（JST）平成 29 年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の公募交流計画（受入機関：一般財団法人東北多文化アカデミー）として実施されました。